

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立四日市工業高等学校定時制)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		21世紀の明日を担う人づくりを実現するために、校訓「技術と精神（こころ）」を、すべての教育活動の基本に据え、社会のニーズ及び保護者の付託に応え得る学校の実現を図ります。
(2)	育みたい 児童生徒像	○工業の専門的な知識・技能を習得した人材の育成。 ○基礎的・基本的な学力を身につけた人材の育成。 ○主体的に将来を設計することができる人材の育成。
	ありたい 教職員像	○基礎・基本を重視した教育活動の展開ができている。 ○キャリア教育を重視し、進路希望が実現できる教育ができている。 ○人権を尊重する教育が充実している。 ○生徒・保護者、教職員、地域の人々がそれぞれ「入学して良かった」「勤務して良かった」「地域にあって良かった」と思える学校となる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		[生徒（未成年）] 高校卒業、卒業後の就職先確保、技術・技能の習得、資格の取得 [生徒（成年）] 技術・技能の習得、資格の取得 [保護者] 高校卒業、卒業後の就職先確保、学校生活への適応	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	[保護者] 生徒の卒業、学校生活への適応、進路保障 [卒業生] 本校の存続 [中学校] 本校の存続、進学した生徒の卒業、進路保障		[保護者] 基本的な生活習慣・学習習慣の確立 [卒業生] キャリア教育への協力 [中学校] 生徒募集に対する情報提供
(3) 前年度の学校関係者評価等		正規雇用での内定率ほぼ100%の達成に向けて、学校として取り組み続けていることは高く評価できる。北勢地区唯一の定時制工業高校としての社会的使命を考えたとき、今後もこの状況を継続できるよう努力してほしい。 生徒数が増加していく中、社会構造の変化にも対応できる専門的知識と技能を身につけた人材の育成を目指す必要がある。	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本を習得し、それを発展させるために有効な指導方法と学習内容の検討を行う必要があります。 人権教育を更に深め、高校生段階での人権の基本的な知識・意識のレベルを向上させる必要があります。 多数の外国人生徒が在学しています。保護者との意思疎通など、様々な課題を解決していく必要があります。 工業人として必要な安全意識を醸成するため、生徒の規範意識を高める取り組みを行う必要があります。 生徒自身の健康管理に対する知識を培い、健康に関する管理能力を高める必要があります。 	

学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 本校は県北部地域唯一の定時制工業高校であり、働きながら学ぶ青少年の場、生涯にわたって学習する場としての役割を果たすため、学習内容を精査する必要があります。そのため、機械交通工学科・住システム工学科両学科の専門性の充実を図っていく必要があります。 先行き不透明な経済雇用情勢のなか、生徒に就職に対する意識を高め、希望業種を把握することにより、卒業後の就職先を確保する必要があります。 学校は、地域や保護者等との情報共有を更に図る必要があります。そのため、保護者、学校関係者評価委員等に、めざす学校像や重点取組の周知を図ると共に、授業公開や市広報等の広報活動等を通じて学校情報を積極的に発信し、開かれた学校づくりを推進していくことが求められます。 教職員の心身にわたる健康及び福祉の増進と自己啓発のための創造的自由時間の拡大充実を図るため、時間外勤務の短縮、年休の取得促進、休憩時間の確保等、総勤務時間の縮減に関する取組を推進する必要があります。
-------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒や教職員が一人一人を大切にし、皆が思いやりの心をもって、互いに尊重し合い、信頼し合う良い人間関係をつくることにより、人格の形成を目指します。 ○生徒が卒業後に会おうであろう様々な社会環境の中で生きていくために必要な力とは何かを明らかにし、その力を付けさせるための活動を計画的、系統的に実践します。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒や保護者が「四日市工業高校に入学して良かった。」と思う、教職員が「四日市工業高校に勤務して良かった。」と思う、地域の人々が「四日市工業高校は地域にとって必要な学校である。」と思う、そのような学校づくりを目指します。 ○学校運営の効率化に努め、教職員の総勤務時間の縮減を図るとともに、多忙化の解消と自己実現のための時間を確保できる環境づくりを進めます。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○生徒指導・健康安全	1 学校行事への出席率および満足度の向上をめざします。 (1) 生徒会の活性化をめざします。 生徒議会の実施 【学期1回】	1 (1)(2) 生徒議会では、全国大会壮行会の企画運営を行った。後期は、文化祭でプラネタリウム鑑賞とコンサートを行った。2月に予餞会の企画運営を予定している。 2 毎月8回、日時を特定して実施。学期初めの1週間は、下校指導及び給食指導を行った。 3 SNS企業による情報端末・通信機器の正しい使い方を学んだ。 4 (1) 定期健康診断受診率は、中途退学者、未履修者、長欠を除くと91.2%だった。 (2) 保健だよりを毎月発行した。	※ ※ ◎ ※ ※
	2 規範意識を育成します。 (1) 休憩時間の生活指導・下足指導 【1回2週間を年間6回】		
	3 メディア・リテラシーを高め、情報社会に参画するために必要な態度育成に努めます。 (1) ケータイネット講話の実施 【年1回】		
	4 生徒自ら健康管理できるよう、生徒の意識の向上をめざします。 (1) 健康診断受診率の向上【健康診断受診率100%】 (2) 健康生活実践のための知識の補充として、生徒向		

○進路指導	<p>け保健だよりの発行 【毎月発行】</p> <p>(3) 薬物乱用防止保健講話の実施 【年1回】</p> <p>(4) 保健講話の実施 【年1回】</p> <p>1 生徒の希望業種の把握と就職に対する意識の向上を図ります。</p> <p>(1) 卒業予定者への進路面談の実施 【年2回】</p> <p>(2) キャリア教育を充実させます。 進路講話の実施 【年1回】</p> <p>2 就職希望者の正社員としての内定獲得 【100%】</p> <p>(1) 卒業予定生徒を対象とした就職試験前補習の実施 【夏期休業中・随時】</p>	<p>(3)正しい薬の使用について学んだ。 ※</p> <p>(4)生きることの大切さについて学んだ。 ※</p> <p>1 (1)年2回以上実施 ※</p> <p>(2)講師としてキャリアアコンサルタントを招いた。生徒の感想文から、一生懸命聞いていたことがうかがわれた。満足度は96%。 ※</p> <p>2 学校斡旋による就職希望者の正社員としての内定率100% ◎</p> <p>(1)夏季休業中に補習、20回実施。後期より、普通科の授業を利用して、計算・漢字のドリルを授業の始めに行っている。 ※</p>	<p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p>
○人権教育	<p>1 基礎学力の向上に取り組みます。</p> <p>(1) 授業時における基礎的・基本的な学習ドリルの実施 【1～3年次生・週1回】</p> <p>(2) 基礎学力テスト実施による学力の把握 【全学年・年1回】</p> <p>2 人権教育を充実させます。</p> <p>(1) 1年次生及び外国人生徒に対するアンケート調査と個人面談の実施 【年2回】</p> <p>3 生徒による人権教育の推進をめざします。</p> <p>(1) 生徒人権教育推進委員会の実施 【年2回】</p> <p>(2) 生徒による「人権だより」の発行 【年2回】</p> <p>4 多文化共生を目指す取り組みを行います。</p> <p>(1) 外国人生徒・保護者と、通訳を交えての三者面談の実施 【年2回】</p> <p>(2) 国際理解のための行事の実施 【年1回】</p>	<p>1 1～3年生に対して週1回の計算及び漢字の書き取りのプリントを作成し実施。基礎学力の把握と定着を図った。 ※</p> <p>2 新入学生に対し意識調査を行い、その結果を受けて、9月に人権・国際理解教育の講演会を実施、12月には人権LHRを実施した。4月に外国人生徒に対してアンケートを実施した。 ※</p> <p>3 現状では生徒の時間的制約もあり、生徒による人権教育の推進は行われていない。 ※</p> <p>4 外国人生徒に対して年2回三者面談を実施した。人権国際理解教育として講演会を行った。 ※</p>	<p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p>
○教務関係	<p>1 基礎・基本の習得を目指す学習活動を展開します。</p> <p>(1) 授業時における基礎的・基本的な学習ドリルの実施 【1～3年次生・週1回】</p> <p>(2) 基礎学力テスト実施による学力の把握 【全学年・年1回】</p> <p>(3) 卒業予定生徒を対象とした就職試験前補習の実施 【夏期休業中・随時】</p> <p>2 資格取得への取組を行います。</p> <p>(1) 資格取得を通じ、生徒の社会での自立できる力を高めます。 資格取得支援の補習実施 【各コース・随時】</p> <p>3 学力差に対応した有効な指導方法等を研究します</p> <p>(1) T・T、習熟度別授業の実施</p>	<p>1 教務関係 ◎</p> <p>(1)実施により基礎学力の充実を図った。 ※</p> <p>(2)前期中間考査時に基礎学力テストを実施。結果を基に1年生対象の補習を実施した。 ※</p> <p>(3)進路指導部主導で夏季休業中補習を実施し、就職に成果をあげた。(20日間) ※</p> <p>2 (1)各コースで実施し、資格取得に向け、力をつけた。 ※</p> <p>3 (1)1、2年生を中心に主に普通教科で実施した。 ※</p>	<p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p>

	4 教務部関係内規の見直しを行い、実態に則した円滑な運営ができるよう改訂を行います。	4 一部改訂	◎
--	--	--------	---

改善課題

○進路指導

生徒が自ら自分の将来に対する明確なビジョンをなかなか持てないことが多い。そのためなるべく早い段階から就職に向けた意識付けが必要であり、アルバイトを経験することはその第一歩と考えられる。工業の授業と関係があり、また、自分の適性を把握出来るようなアルバイトの提供が重要であるため、今年度から12月に36社企業訪問を行い、生徒の就労先としてのアルバイトの開拓をしている。

○人権教育

基礎学力の向上については、昨年に続き、計算と漢字の書き取りの2種類を作成して実施し基礎学力の把握と定着をはかった。実施方法や内容、効果については今後も継続して実施していく中で検討していきたい。進路・担任(4学年)を中心に4年生を対象とした就職試験に向けての補習および、卒業後の就労のための基礎学力の補習を、今後も継続して行う必要がある。また、人権・国際理解教育講話、人権LHR、職員研修、職員フィールドワークなどを計画し、実施することができた。

特に人権LHRについては、本年度は「全国統一応募用紙と就職差別」ということについて学ぶことができた。また、実際に統一応募用紙を記入することにより生徒自身の今後の進路について考えさせるとともに資格の取得などの啓発を行うこともできた。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○組織運営	<p>[総務関係]</p> <p>1 各式典を企画し、円滑な運営にあたります。</p> <p>2 防災訓練や防災教育を実施し、生徒が非常時に適切に対応できる能力が身につくよう努めます。</p> <p>3 学校運営の効率化を図り、総勤務時間の縮減に努めます。</p> <p>[校務改善]</p> <p>1 年次休暇の取得について前年度の10%増を目指します。 【10%増】</p> <p>2 週一回以上の部活動休養日の実施 【100%】</p> <p>3 毎月末の金曜日に定時退校日の実施 【100%】</p> <p>4 会議時間を1時間以内に短縮 【100%】</p>	<p>2 防災訓練は7月と12月に実施。迅速に行うことができた。</p> <p>総勤務時間の縮減については、校務運営の効率化および休暇取得の推進等、4項目の取組について、すべて目標を達成することができた。</p>	◎
○研修	<p>[人権教育関係]</p> <p>1 教職員研修を充実させます。</p> <p>(1) フィールドワークの実施 【年1回】</p> <p>(2) 人権LHRに向けての研修会の実施 【年1回】</p>	<p>1 (1) 7月に人権フィールドワークを実施した。</p> <p>(2) 9月に「LGBT」をテーマとして人権講演会を実施、12月に人権LHRに向けての職員人権研修会を実施した(年度末および適宜記載)</p>	※
○保護者・地域との連携	<p>[生徒指導・健康安全]</p> <p>1 交通安全意識を向上させます。</p> <p>(1) 登下校指導の実施 【1回1週間年6回】</p> <p>(2) 駅及び駅周辺の校外指導 【年4回】</p>	<p>1 (1) 登校指導は毎月1週間に2回から3回程度実施。</p> <p>(2) 通学路及び駅周辺、ショッピングセンターを含む校外指導を行った。</p>	◎

	<p>(3) 交通安全講話の実施 【年1回】</p> <p>[進路指導関係]</p> <p>1 幅広く求人開拓を行います。</p> <p>(1) 会社訪問の実施 【年20社以上】</p> <p>(2) 雇用促進に関する会議への参加 【100%】</p> <p>(3) 在校生のアルバイト情報を得るための、ハローワークへの訪問 【月2回】</p> <p>[人権教育関係]</p> <p>1 地域の諸機関と連携します。</p> <p>(1) 人権プラザ訪問 【年2回】</p>	<p>(3) レーサーによるモータースポーツから学ぶ交通安全講話と命の大切さを学ぶ等の講演を2回行った。</p> <p>1 (1) 4月以降50社以上。</p> <p>(2) 12月段階で20回以上。</p> <p>(3) ハローワークとの連絡は月2回以上実施。</p> <p>1 (1) 4月に赤堀・天白・神前・小牧人権プラザを訪問し、現状把握と今後の連携について話し合った。</p>	<p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p>
--	---	---	-------------------------------------

改善課題

○進路指導

本年度は売り手市場であったが、全体的な求人数が減少した場合、生徒の基礎学力の低さは今後大きなネックになる可能性が高い。特に国語や数学の教科指導は今後も重要となり、学校全体で、生徒の基礎学力向上に取り組む必要がある。

○生徒指導・健康安全部

- 1 文化的行事は文化祭2日間と2月予定の予餞会を含み3回の実施。文化祭では2日間で約230人参加。参加者も多く、満足度も高いと感じている。特にコンサートについては生徒の反響がよかった。今後は、生徒会役員が企画する生徒主体の行事への取組や、地域の施設を利用した取組等を考えたい。
- 2 スリッパのマナー改善、下足の脱ぎ捨て防止、ゴミのマナー向上、給食室の使用マナーの向上に努めた結果、学校生活全般について落ち着いている。また校門での下足指導を行うことによって、外出する生徒のマナーは向上している。今後も継続していく必要がある。環境美化指導の一つとして全生徒参加のクリーンナップ活動を実施した。
- 3 自転車通学の増加に伴い、特に今年度においては、自転車使用のルールについて指導を行うと共に、通学許可制を導入した。さらに自転車の乗車マナー及び安全利用（夜間のライト点灯、イヤホン装着して乗車しない等）の指導を行い、自転車安全利用五則への意識向上を図った。駅利用者のマナーの向上にも取り組んだ。
今年度交通事故が7件あったので、次年度はさらなる自動車、原付バイクを含む指導が必要である。
- 4 スマホのトラブルは発生していないが、社会で多く発生しているスマホトラブルへの注意喚起を引き続き行う必要がある。いじめについてのアンケートを実施。生徒間のいじめ問題は確認されていないが、引き続き注意深く見守っていく。
- 5 定期健康診断は、学校医の先生方の理解と協力で、欠席者の学校での検診日や、医療機関での実施期間を設け、受診機会を保障した。また、各講話後にアンケートを実施し、その集計結果から保健日よりや全校集会の機会に、必要に応じて補足を行った。健康相談や喫煙に伴う指導などから日々変化する生徒の状態に応じた健康課題を把握し、解決に結付けるための指導が必要である。

○教務関係

基礎・基本の習得を目指すなかで、「基礎的・基本的な学習」においては反復練習の時間確保ができないため、基礎学力向上までは至っていない状況である。また、「基礎学力テスト」により学力を把握し放課後の補習授業を行っているが、年間を通し継続的に行うことが出来ない状況であり今後工夫が必要である。これら「基礎学力向上」については、定時制課程の限られた時間の中で、いかに効率よく継続的に指導していくかが課題である。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">○正規雇用での内定率ほぼ100%の達成に向けて、学校として取り組み続けていることは高く評価できる。今後生徒数が増加しても、この状況を継続できるように学校全体で進路指導に取り組んでほしい。○クリーンアップ活動や様々な学習講演会等、地域と連携・協働した教育活動を今後も積極的に推進してもらいたい。○小中学校で不登校を経験した生徒が、定時制への入学を契機に目標を持って学校生活を送れるようになることは、とても良いことである。今後も引き続きキャリア教育に取り組んでももらいたい。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">○正規雇用での就職内定率100%達成に向けて、低学年から計画的・継続的な指導体制の整備を図り、キャリア教育の充実に努める。○1～3年次の授業での基礎学力補充ドリル、1・2年次普通教科のTTまたは習熟度別授業、4年次の基礎学力養成講座など、基礎学力向上のための取組みについて効果の検証を行い、一層の基礎学力向上に取り組む。○アクティブラーニングやユニバーサルデザインの授業について研究し、生徒が授業の中でも自分の居場所を実感できるような、生徒一人ひとりの人権が尊重される授業の充実に取り組む。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">○ホームページや市町広報での情報発信を積極的に実施し、勤労青少年に対する教育機関としてだけでなく、不登校経験のある生徒や中途退学者に学びの再チャレンジの機会を提供する教育機関としての役割を果たしていきたい。○定期的に勤務時間の状況及び年次有給休暇の取得状況等を確認するとともに、勤務時間短縮に係わる取組の確認・検証を行い、総勤務時間の縮減に努める。